

第6期 pES club step4 大会薬学生シナリオ

平成19年6月17日

横浜市立市民病院 薬剤部

五十嵐 俊

東京北社会保険病院 総合診療科

南郷 栄秀

<http://spell.umin.jp>

あなたは名羅手部総合病院に勤務する2年目の薬剤師で、この春から病棟の服薬指導に入る事になりました。服薬指導担当に配属されたのは、大学院で臨床実習を真面目に行っていた事や、日頃の学習意欲が評価されたため、入職1年未満で病棟業務に配置されるのは薬剤部始まって以来の事です。大抜擢に心躍らせつつも、大きな責任を感じながら、はりきって病棟業務を行っていました。

そんなある日、あなたがいつもの様に受け持ち患者のカルテを確認しに病棟に行くと、内科医長の楠力雷先生に呼び止められました。

楠力先生「おい、君！」

あなた「はい?!楠力先生」

楠力先生「君は薬剤師だよな。先月退院した SLE の霧久見加央さんの服薬指導をしたのは君か？」

いきなり強い口調で呼び止められたあなたは、少し驚きながら、

あなた「は、はい、そうです。霧久見さんがどうかしましたか?たしか来週予約が入っていますよね」

楠力先生「どうかしましたかじゃないよ!まったく。君はいったいどんな服薬指導をしてくれたんだ!君のせいで薬を飲まなくなっちゃって大変だよ。あの人には 60mg から段々減らしていかないといけないのに、おかげで具合が悪くなって昨日、救急病棟に再入院したよ。ベテランの久須司さんなら、こんな事にはならなかつただろうに。ちゃんとやってもらわなければ困るよ。とにかく今後は余計な事はしないでくれるかな!!」

よくよく話を聞くと、服薬指導の際に霧久見さんにはステロイドの副作用を説明しましたが、学校で顔のむくみを級友から指摘されたこともあり、薬を自己中断してしまったそうです。その結果、急性副腎不全で再入院したのです。

霧久見さんへ本来行うべきだったステロイドの服薬指導を考えてください(10分間)。

(今後も病棟業務を円滑に遂行するために、医長にあなたの仕事を認めてもらいより強固な信頼関係を築けるような説明も考えてください)